② 遺跡

縄文時代からのくらしの跡をたずねてみよう

村史16~22P ふるさと~64~67P

座光寺には1万年以上前から人が住み、縄文時代から弥生時代の土器や石器は地域のいたるところから出土し、特に弥生時代では郡下の代表的な遺跡がいくつも発見されています。また古墳時代以降では、77基の古墳のほかに住居跡も多く発見され、恒川遺跡群では奈良時代にかけて大集落があり、古代伊那郡衙が置かれ、郡下の中心でした。それはこの地が水利に恵まれ、南向きで日当たりもよく、気候が温暖で災害も少なく、狩猟採集のほかに稲作にも適し、交通の利便性も高く人々の暮らしやすい豊かな地域であったことによります。

美女遺跡　びじょういせき

縄文時代早期~弥生時代後期（1万~1700年前）の遺跡。縄文時代早期のむらとしては県内最大規模です。石鏃（やじり）・石皿などの石器、玦状耳飾りなどが出土しています。

公園として整備された美女遺跡

座光寺原遺跡　ざこうじばらいせき

縄文時代から中世期の遺跡。大堤団地周辺に弥生時代後期前葉（2100年前ころ）の集落が確認され、「座光寺原式土器」の標識遺跡として知られています。

座光寺小学校児童も発掘に参加した（昭和37年）

大門原遺跡　だいもんばらいせき

古くから下伊那地方の縄文中期（4000年前ころ）を代表する遺跡として知られてきました。その後の調査で弥生時代の集落も発見され、狩猟採集に加え、山際の湧き水利用の生業が想像されます。

中島遺跡　なかじまいせき

弥生時代後期後葉（1700年前ころ）の遺跡で、南東に湿地帯を控え、畑作と稲作の複合農業を営む大規模な集落で、「中島式土器」の標識遺跡です。「座光寺原式土器」に続く時代に当たります。

金井原瓦窯跡　かないばらかわらかまあと

奈良時代、寺院関係の瓦を焼いた瓦窯跡です。半地下式無段の窖窯で、近くから瓦製作跡も2カ所発見されています。

古瀬平遺跡　こせだいらいせき

本田善光誕生の地ともいわれ、如来腰掛石があります。弥生時代から平安時代の住居跡および古代の古瓦、中世の朝鮮製とされる金銅製鬼子母神像なども出土し、寺院など重要な遺構の存在が推定されます。

新井原・石行遺跡　あらいばら・いしぎょういせき

古墳時代から中世の墓域といえる遺跡です。古墳時代の高岡・新井原古墳群、平安時代の蔵骨器をもつ火葬墓や土壙、石行遺跡では中世火葬墓群などが発掘されています。また、縄文時代晩期の籾痕土器も出土しています。（古墳19P参照）

恒川遺跡群　ごんがいせきぐん

縄文時代から中世にわたり、連綿と人々が居住していた地域です。奈良・平安時代の「伊那郡衙」跡であることがほぼ明らかになり、現在も確認調査が続いています。（伊那郡衙23P参照）